

令和7年度 多職種連携研修計画（案）

（1）相互理解の促進

①医療・介護関係者向け研修

目 的：「相互理解」というテーマで、医療関係者には介護側の事情を介護関係者に医療側の事情を知っていただく機会とし、お互いの距離や隔たりを縮め、顔の見える関係の中で更に連携を高めることを目的

a. 医療関係者向け研修

目 標：・退院後のご本人がどういった環境でどのような生活をしているかを知ること、退院後の生活のイメージを深めることができる
・イメージを深めることで、病院での受け入れ時の対応や情報整理、退院支援時の連携力の向上となる

テ ー マ：（仮）退院後、施設でこんな生活をしています
～介護老人保健施設、グループホーム編～

講 師：依頼する施設の看護師 or 相談員又は施設 CM

研修時間：1 時間（15～20 分×●名、質疑応答）

内 容：○介護老人保健施設

- ①施設の紹介（配置職員の紹介など）
- ②利用者の視点で施設の 1 日の流れ
- ③施設でできるケアについて（施設で行っているリハビリや医療処置について等）
例）・在宅復帰に向けて施設内でのリハビリについて（器具を使っのりハビリや生活リハビリ等）
・医療ニーズがある方への対応
- ④退院時の情報共有の必要性について
例）食形態等病院からの情報によって、退院後の生活で工夫をしている等
- ⑤事例紹介
例）入所後から在宅復帰までの様子、本人が在宅生活で臨んでいることをどこまで共有し実施しているか等
- ⑥介護老人保健施設の事情について
- ⑦介護老人保健施設の強みについて

○グループホーム

- ①施設の紹介（配置職員の紹介など）
- ②利用者の視点で施設の 1 日の流れ
- ③施設でできるケアについて（施設で行っている医療処置について等）
例）施設では安全に配慮しつつ、施設内の移動も生活リハビリの一環として行っている等
- ④退院時の情報共有の必要性について
例）食形態等病院からの情報によって、退院後の生活で工夫をしている等
- ⑤事例紹介
例）・退院後から現在までの様子等（退院後刻み食から常食に戻した経緯、歩行

器を使っていたが、日常生活を送るうちに杖歩行又は自立歩行になった等)

- ・退院時に病院からグループホームに入居したケースかグループホームから入退院したケース

⑥グループホームの事情について

⑦グループホームの強みについて

開催方法：集合開催（キャラバン方式 全3回実施予定）

- ・1回目は、五稜郭病院
- ・2回目は、函館医療センター
- ・3回目は、医師会病院

開始時間は、1, 2回目は、17:30~18:30（予定）

3回目、18:30~19:30（予定）

時 期：医療向け研修も介護向け研修も5月、8月、年明けの2月を予定

○講師依頼

- ・介護老人保健施設→道南地区老人保健施設事務長連絡会
- ・グループホーム→南北海道グループホーム協会

上記の団体にそれぞれ講師依頼予定。

b. 介護関係者向け研修

- 目 標：・介護関係者に、医療機関の病床機能や対象となる患者像、入院可能期間の違い、役割等を理解してもらうことで、スムーズな連携につなげることができる。
- ・病院の中で行われている入退院支援の流れなどを知ること、自分たちに行える必要な連携を考えることができる。

テ ー マ：（仮）回復期機能をもった病床のある病院の事情について
～思いやりのある連携～

講 師：回復期機能をもった病床のある病院の医療相談員

研修時間：1時間1時間（15~20分×●名、質疑応答）

内 容：①回復期機能をもった病床（回復期リハビリ病棟及び地域包括ケア病棟）で実施されている役割や要件について（入院期間の違いなど）
②病院側の事情について（在宅復帰率や加算、減算要件など）
③在宅復帰、施設退院に向けた介護側との連携、退院支援の流れ
④入退院時の情報共有の必要性（入退院時加算などを含めた話）
⑤患者さんの状況や疾患、予後により病床の選択が変わること、回復状況による退院先の選択肢について

開催方法：集合開催（1, 3回目は函館市、2回目は北斗市又は七飯町で実施予定）

時 期：医療向け研修も介護向け研修も5月、8月、年明けの2月を予定

○講師依頼

回復期リハビリ病棟、地域包括ケア病棟のある病院で2つの病床機能を持った病院へ依頼予定。

②オープンカンファレンス（年度中に検討）

③研修会等コーディネート

各関係団体へ連絡・確認：6月に確認書類 配布

*医療・介護各関係団体窓口一覧の内容の確認、更新

（2）連携強化

①第10回函館市医療・介護連携多職種研修会

（ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター共催）

日 時：令和7年10月18日（土）14時～17時

場 所：函館国際ホテル

方 法：集合開催

形 態：講演，グループワーク

対 象 者：函館市・北斗市・七飯町の医療・介護関連従事者

目 的：在宅生活の支援を検討する上で弊害となっている地域の課題（壁）を多職種で出し合い共有したうえで、本人の想いを叶えるチーム支援力の向上、在宅生活の限界点を引き上げる可能性について共に考える。

目 標：・在宅支援の現状と課題を把握した上で、互いが取り組んでいることや理想へ向かうためのイメージを共有できる。

・理想のチーム支援を実現するために、どのような取り組みを進めるとよいのかを考える。

・上記を踏まえ、明日から自分たちができることを考える。

テ ー マ：（仮）病院・在宅・施設の立場から考える

～在宅生活ムリだよねの壁を越えてみませんか？～

講 師：座長：川口先生

講師：未定

病院関係者：医師，看護師（退院支援看護師，MSW）など

在宅・施設関係者：居宅ケアマネジャー，施設（管理者・相談員），訪問看護師など

内 容：○講演内容

・支援者側が在宅生活ムリだよねと感じる壁（地域の現状や課題など）とは

・各専門職が在宅生活ムリだよねの壁を越えるために日々実施していること

・本人の想いを叶えるチーム支援力の更なる向上、在宅生活の限界点を引き上げていくためにできること

○グループワーク

○意見交換，質疑応答

②看取り

函館市医療・介護連携「在宅看取り研修会」

※6連協との共催にて開催を検討

③入退院支援

「入退院支援連携強化研修会（ガイド編）」（退院支援分科会主催）

「入退院支援連携強化研修会（サマリー編）」（情報共有ツール作業部会主催）

※各部会・分科会にて開催検討

④急変時対応（急変時対応分科会実務者会議主催）

※実務者会議にて検討

（３）多職種連携の専門性の向上

○函館市における多職種連携への理解の促進

・出張講座メニューの追加・更新及び各関係団体へ周知・案内の継続

（４）人材育成

○センター主催研修会への見学参加

・市内の医療系・福祉系の教育機関に研修案内・出前講座を継続する

・出前講座メニューの追加・更新及び各教育機関への周知・案内の継続